

長崎がんばらば国体では、『県民運動 5つの目標』がある。

- 1.ボランティア ボランティア活動や式典参加で、国体を支え盛り上げよう
- 2.スポーツ スポーツに親しみ、心身の健康・体力づくりを行おう
- 3.まちづくり 地域の特色を活かした魅力あるまちをつくろう
- 4.情報発信 国体等の開催と「ながさき」の魅力を発信しよう
- 5.おもてなし おもてなしの心で、交流の輪を広げよう

以上の5つ。

5番目の「おもてなし」では「手作りのぼりや看板で出迎えよう！」（＝地域や学校で、歓迎のぼり、応援のぼり、手作りの案内看板等をつくって、全国から訪れる来県者の皆さんを、おもてなしの心で出迎えよう！）がある。

それらはとても微笑ましく、長崎のみなさんへの親近感や感謝の気持ちを湧き起こしてくれる。

下の写真は、我らの宮本 昌典さんが出場する諫早農業高校第一体育館へ続く道の手作りのぼり。

小学生のみんなが、それぞれのスポーツやアスリート、またそれぞれの出身県に思いをはせながら描いてくれている。

2020年の東京オリンピックでも、世界とのコミュニケーションという意味で、このおもてなし手法はとてもよいのでは？



そんなことを考えながら、いよいよ会場に到着。
既にウェイトリフティング少年69kg級の試合は準備万端。



ウェイトリフティング競技は4m四方のプラットホームの上で行われる。床の上のバーベルを一連の動作で一気に頭上まで引きあげキャッチする「スナッチ」種目と、バーベルを一度胸まで引きあげ、そこから両足と腰の反動を利用して差しあげる「クリーン＆ジャーク」の2種目がある。重量を増量しながら3度の試技を行い順位を競う。より重い重量をあげた選手が勝者となるが、同記録の場合は体重が軽い選手が勝者。

いよいよ少年69kg級「スナッチ」が始まった。申告重量が軽い選手から始まるので、申告重量の重い宮本さんラストに登場。それ以前の選手の記録を超える107kgをさりとクリア。一発で優勝を確定。次の試技はなんと、国体新記録の123kg。15kgも上げた。第2試技、一気に上までもっていったバーベルがなんと、腰をもち上げる前に後ろに落ちてしまった。（下の写真）



やはり、107から123kgへ一気に重量を上げるのは無謀だったのでは？他の選手は第1から第2試技で重量を上げる際はほとんどが1kg刻みだった。宮本さんでも一気に大会記録は厳しいのかもしれない・・・、不安が胸をよぎった。「スナッチ」最後の第3回目の試技。

無重力状態かのようにバーベルを引き上げ（下左）、落とした腰をゆっくりと伸ばし、バーベルで天を突いたあ。（下右）やりました。成功、成功！。素晴らしい、スナッチは大会新記録での優勝！！



次は「クリーン＆ジャーク」、ここでも宮本さんの登場はラスト
 それまでのTopは132kg。宮本さんはそれを超える143kgをさらりと持ち上げた。優勝確定だ！
 第2試技、大会新記録の147kgにチャレンジするだろうと強気の予想したが、その通りだった。147kgを力強く持ち上げて、成功！第3試技、150とか、きりの良い数字にするのかなぁ〜と見ていたら、「時間をとめてください」の場内アナウンスが響く。持ち時間は1分だが、重量を上げる際は時間が止まる。

耳を疑った、「157kgに変更してください」。また一気に10kgもアップし、高校生新記録に挑む。
 1,2い〜の、3（会場全体がかけ声に包まれた）宮本、157kgを上げたあああ。素晴らしい。感動！！



今までの試技ではクールな宮本さんも、高校新記録の達成には最高の雄叫びとガッツポーズ！
 最高の瞬間に立ち会えて、幸運。





結局、「スナッチ」、「クリーン&ジャーク」ともに宮本さんが
新記録での優勝。
当然、トータルも断トツのNo1！少年69kg級完全制覇。

		スナッチ	クリーン&ジャーク	トータル(kg)
1位	宮本 昌典	123	157	280
2位	十島 明生	106	132	238
3位	花井 慶典	105	130	235

左の写真は「スナッチ」の表彰

下の写真は「クリーン&ジャーク」の表彰

バーベルをもつ姿とは全く異なり、少年の面影が残る爽やかで、
晴れやかな姿だ。

余談ですが、

表彰式後、宮本さんが客席へ降りてきてくれた。

シャッターチャンスで、インタビューチャンスなのに、私は新記録
尽くしのパフォーマンスに感激し、どちらもできずに、宮本さんとの
握手を求めてしまいました・・・ 握手できて嬉し♪

<みなさま、申し訳ありません m(__)m>

